

# 「クリスマスプレゼント」

ルカ 2 : 28-38、2 : 6-55

## ■ モンゴルキッズの家の日

高見澤先生が日本事務局の支援会代表として働かれている、モンゴルのマンホールチルドレンをサポートしている「モンゴルキッズの家」の子どもたちの一日を紹介した動画を見ました。冬は零下 40 度にまで下がるモンゴルで、行き場のない子どもたちはマンホールの中に暮らしています。そんな子どもたちを安全・安心な環境で生活させるための施設が「モンゴルキッズの家」です。この施設では、子どもたちは栄養のある食事をとり、暖かい布団で眠り、遊び遊ぶことができます。スタッフは祈りから始め、子どもたちの成長・自立に向けてサポートが行われていました。また、「モンゴルキッズの家 2 号」では、路上生活をしている児童や若者が安心できる場所で暮らし、大人と社会への信頼回復を目指すプログラムが行われています。このモンゴルキッズ 2 号の働きが安定的にできる施設を探していますので、皆さんぜひお祈りください。

## ■ クリスマスについて

「クリスマス」は 2 つの単語から成り立っています。それは、「クリス（キリスト）」+「マス（ミサ）」であり、イエス・キリストを礼拝するという意味です。それでは、「礼拝」とはどんな意味があるのでしょうか。ヘブル語では、「大声で躍り上がって神をたたえる、手をあげて神をたたえる、心から捧げものをささげる、神様の前にひざまずく」などの意味があります。そしてギリシャ語「プロスキネオー」の語源の一つでは、「犬がご主人に会えて嬉しくて手をペロペロなめる」という意味があります。礼拝はそれくらい嬉しいものだ表現されています。英語では「worship」ですが「worth（価値がある）」+「ship（状態）」であり、「神様がどれくらいの価値があるか分かって礼拝する」という意味があります。クリスマスと言えばクリスマスプレゼントをサンタが配ると考えられがちですが、サンタクロースは聖書には出てきませんね。このモデルは 4 世紀のカトリックの神父セントニコラスで、自分の受けた恵みを分け与えるため、クリスマスに貧しい家庭の煙突からお金を投げ入れたのが始まりと言われています。つまり、クリスマスプレゼントは「もらうもの」ではなく「与えるもの」だったのです。私たちクリスチャンは、それほどまでにイエス様という大きな恵み（プレゼント）を受け取ったので、一人で受けるにはもったいないと、誰かに愛を流しているのです。

## ■ イエス様は私たちへのプレゼント

聖書の中で、イエス様が私たちへのプレゼントと記されている箇所があります。『神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。』（ヨハネ 3 : 16）

## ■ 御言葉を分解してみましょう

- ①「神は」（創造主）…神は天と地を造られました。宇宙に目を向けてみましょう。私たちが生存している「天の川銀河」は 2500 億の星があり、端から端まで 10 万光年と言われています。現在 NASA が把握しているだけでこのような銀河が 2 兆あると言われていて、その先は人間の力では分からないそうです。そして、その銀河の集まりを「超銀河団」といい、「超銀河団」がたくさん集まって、「宇宙」ができあがっています。人間に目を向けても神の素晴らしさを感じられます。一人の人間は 37 兆の細胞でできており、DNA の情報量は非常に多く、また一つ一つの細胞の役割も細かく決められています。聖書ではこの世を造られ、保持されている方だけを「神」と呼ぶように書かれています。
- ②「実に、そのひとり子」…父なる神、子なるキリスト、聖霊なる神で三位一体と言われています。この 3 つは別々のものではなく、本質的に同じなので、一つであるという意味です。
- ③「お与えになるほどに、この世を愛された」…子どもを誰かに与えるというのは大きな痛みが伴います。それほどまでの犠牲を払って、父

なる神は子なるキリストをこの世に送って下さいました。パプアニューギニアのとある部族では紛争が耐えず、それを解消するために、お互いの部族の赤ちゃんを交換し、その子が生きている限り戦争をしない誓いを立てます。この赤ちゃんは「peace child（平和の赤ちゃん）」と呼ばれています。それを受けてある宣教師が、イエス様がこの世にいられたのはまさに「peace child」として来られたと伝え、この部族はクリスチャンになったという話があります。イエス様はこの世にいられた、「天国に生きる者の価値観」を教えてください、十字架にかかることで私たちの罪を全て引き受けて下さいました。

④「世を愛された」…この世とは全て（社会的弱者、貧困層、病人、老人、女性、被害者、囚人など）を含んでいます。イエス様は家畜小屋に生まれ、その知らせは数にも数えられない存在だった羊飼いに最初に知らされました。羊飼いは当時人間扱いされず蔑まれた存在で、礼拝することが許されていませんでした。イエス様は家畜小屋で生まれて下さったからこそ、羊飼のような存在が礼拝することができたのです。

⑤「それは、御子を信じる者が」…キリストを「信じる」とは実は単純で、「あ、そうか」と素直に受け入れることなのです。イエス・キリストの存在を疑う人もいますが、歴史的書物に確かに記されています。またイエス様は「わたしを見たのは神を見たのだ」と言われていますが、「あ、そうか」と言えると神（イエス様）を信じているのです。イエス様のなされた御業は「自然（水の上を歩く、嵐を鎮めるなど）」、「罪と死の力（罪と死の力を乗り越えるなど）」、「悪霊（神の被造物である天使に立ち返るように伝えるが立ち返らないと決めることも神はご存じだったなど）」に分けられるが、そのようなことが聖書に書かれており、それを「あ、そうか」と受け入れながら聖書を読めばいいのです。

⑥「ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを保つためである」…私たちは罪のために滅びなければいけないのですが、罪が取り去られると滅びの必要がなく、天の御国に入ることができます。キリストの十字架による赦しがあるからこそ、私たちは罪から解放されるのです。私たちは、天の御国に入るためのビザ「イエス・キリスト」をいただいています。それは、いい人だからでも、信仰深いからでも、何かができるからでもなく、イエス・キリストを受け入れているということが必要なのです。私たちはこのビザをただで受けたのです。私たちはこの特権を用いて、私たちの周りの人が一人でも多く、天の御国に入れるように、知恵と力と聖霊が与えられています。

## お祈りしましょう

この世を造られた偉大な主は、数にも数えられなかった羊飼いに最初に良い知らせを告げたように、私たち一人一人のところまで届いて下さっていることを感謝します。神様は、この宇宙を、そして人間を、私たちが計り知れないほどの綿密さに創造され、罪深い私たちのために、ひとり子をお与え下さいました。それは、私たちが誰一人として滅びることなく、天の御国に入れるようにという愛ゆえにです。私はそのことを知りながら、時にあなたのことを横に置き、時に自己中心になり、よく分からなくなったと諦めそうになってしまいます。でも、あまりに偉大なあなたの全てを頭で理解しようとするこそ、高慢なのかもしれません。「あ、そうか」と子どものように素直な心で、あなたに求めて聞き従っていくだけでいいのだと思われました。私たちは「イエス・キリスト」というビザをただで与えられました。頭で考えるのをやめて、「あ、そうか」と受け入れて、天の御国に入れる特権を与えられたことを喜び、ひとりでも多くの人にそのことをプレゼントできるクリスマスとしたいです。

（要約者：神達 良子）

（2024年12月15日）